

1. 略歴

1996年	東京大学文学部美学藝術学科卒業
1996年	東京大学大学院人文社会系研究科（南欧語南欧文学専門分野）修士課程入学
1998年	東京大学大学院人文社会系研究科（南欧語南欧文学専門分野）修士課程修了
1998年	東京大学大学院人文社会系研究科（南欧語南欧文学専門分野）博士課程進学
1999年	ボローニャ大学イタリア文学研究学科博士課程入学
2001年	東京大学大学院人文社会系研究科（南欧語南欧文学専門分野）博士課程退学
2001年8月	東京大学大学院人文社会系研究科（南欧語南欧文学専門分野）助手（～2006年7月）
2005年	ボローニャ大学イタリア文学科博士課程修了、博士号（Ph.D.）取得
2009年	静岡文化芸術大学文化政策学部国際文化学科専任講師（～2012年3月）
2012年4月	静岡文化芸術大学文化政策学部国際文化学科准教授（～2014年3月）
2014年4月	立命館大学文学部国際文化学域文化芸術専攻准教授（～2018年3月）
2018年4月	立命館大学文学部国際文化学域文化芸術専攻教授
2022年4月	東京大学大学院人文社会系研究科准教授

2. 主な研究活動

(1) 博士論文

L'esperienza friulana di Pasolini e i suoi sviluppi (1941-1955), Università di Bologna, 2005. [「パゾリーニのフリウリ体験とその後の展開（1941年-1955年）」、ボローニャ大学、2005年]

(2) 編著書

単著、*L'esperienza friulana di Pasolini: cinque studi*, Firenze, Cesati, 2011, 226 pp. [『パゾリーニのフリウリ体験—5つの論題』、フィレンツェ、チェザーティ、2011年、226頁]

Cap. 1: *Periodo bolognese e prima poesie in italiano*, pp. 17-38. [第1章「ボローニャ滞在期とイタリア語による初期の詩」、17-37頁]

Cap. 2: *POESIE A CASARSA, la prima esperienza dialettale*, pp. 39-74. [第2章「最初の方言的体験としての『カザルサ詩集』」、39-74頁]

Cap. 3: *Poesia in lingua ed esperienza teatrale del periodo friulano*, pp. 75-114. [第3章「イタリア語による詩とフリウリ滞在期の演劇」、75-114頁]

Cap. 4: *Poesia "in quasi-spagnolo" e traduzione in friulano*, pp. 115-141. [第4章「擬似スペイン語による詩とフリウリ方言への翻訳」、115-141頁]

Cap. 5: *LAMEGLIO GIOVENTÙ, un canzoniere friulano*, pp. 143-177. [第5章「フリウリ方言による詩歌集（カンツォニエーレ）としての『最良の青春』」、143-177頁]

Appendice: *Pasolini e la poesia giapponese HAIKAI*, pp. 179-197 [付論「パゾリーニと日本の詩、俳諧」、179-197頁]

共編著、『国際文化学への第一歩』、すずさわ書店、2013年、33-47頁

共編著、『教養のイタリア近現代史』、ミネルヴァ書房、2017年、1-7頁、87-99頁

単著、*Intertinee. Studi comparati e oltre*, Firenze, Cesati, 2021, 204 pp. [『インターライン “行間” —比較研究ほか』、フィレンツェ、チェザーティ、2021年、204頁]（12本を再録、その他4つの未発表稿を収録）

Introduzione, pp. 11-13 [序、11-13頁]

Parte prima. *Altre avanguardie* [第1部「異種の前衛」]

Cap. 1: *Gli avanguardisti non allineati al movimento di Marinetti: Lionello Fiumi*

Auro d'Alba, Francesco Meriano, pp. 17-26 [第1章「マリネッティの運動に与さない前衛派：リオネッロ・フィウミ、アウロ・ダルバ、フランチェスコ・メリアーノ」、17-26頁]

Cap. 2: *Marinetti 1926: le Misurazioni come nuova critica teatrale e il primo*

viaggio in Sud America, pp. 27-38 [第2章「マリネッティ 1926年：新たな演劇批評としての「ミズラツィオーニ」（評定）と初の南米旅行」、27-38頁]

Cap. 3: *L'Archivio Marone a Buenos Aires*, pp. 39-45 [第3章「ブエノス・アイレスのマローネ文庫」、39-45頁]

Cap. 4: *Harukichi Shimoi e l'avanguardia napoletana*, pp. 47-58 [第4章「下位春吉とナポリの前衛」、47-58頁]

Parte seconda. Pasolini tradotto e riletto [第2部「パズリーニの翻訳と再解釈」]

Cap. 5: *Tradurre il primo e ultimo Pasolini: i versi friulani e Petrolio*, pp. 61-77 [第5章「初期と晩年のパズリーニを訳す：フリウリ方言詩と『石油』」、61-77頁]

Cap. 6: *Studi pasoliniani in Giappone*, pp. 79-96 [第6章「日本におけるパズリーニ研究」、79-96頁]

Cap. 7: *Pasolini critico della poesia dialettale e del canto popolare*, pp. 97-114 [第7章「方言詩と民衆歌の評論家パズリーニ」、97-114頁]

Parte terza. Lettere italiane nella modernità giapponese [第3部「近現代日本におけるイタリア文学」]

Cap. 8: *Dante in Giappone*, pp. 117-121 [第8章「日本におけるダンテ」、117-121頁]

Cap. 9: *Leopardi pessimista ensei: un secolo di recezione in Giappone*, pp. 123-131 [第9章「(厭世) ペシミスト・レオパルディ：日本での受容の一世紀」、123-131頁]

Cap. 10: *Ōgai Mori e Gabriele D'Annunzio: interscambi letterari nel primo Novecento giapponese*, pp. 133-136 [第10章「森鷗外とガブリエレ・ダンヌンツィオ：20世紀初頭の文学的影響関係」、133-136頁]

Cap. 11: *Mishima tra i letterati italiani: Moravia, D'Annunzio, Pasolini*, pp. 137-145 [第11章「イタリア人作家とミシマ：モラヴィア、ダンヌンツィオ、パズリーニ」、137-145頁]

Cap. 12: *Il paradosso del mare nella poesia contemporanea italiana e giapponese*, pp. 147-158 [第12章「日伊の現代詩における海のパラドクス」、147-158頁]

Parte quarta. Giappone, un'Italia allo specchio [第4章「日本、鏡に映ったイタリア」]

Cap. 13: *“L'Italia, un Giappone in Europa”: le immagini sovrapposte nel boom dell'Italia del tardo periodo Meiji*, pp. 161-169 [第13章「以天利其歐洲の日本也」—明治後期イタリアブームにおける二重写し」、161-169頁]

Cap. 14: *I prigionieri italiani in Giappone durante la Grande Guerra*, pp. 171-181 [第14章「第一次世界大戦期の日本におけるイタリア人俘虜」]

Cap. 15: *A proposito del mirai, tutto ciò che non ci arriva ancora (o forse è già arrivato)*, pp. 183-187 [第15章「ミライについて、われわれに追いついていないもの(あるいはすでに到達しているかもしれないもの)」、183-187頁]

Cap. 16: *La poesia haiku: sul perché della brevità*, pp. 189-194 [第16章「詩歌たるハイク、その短さの所以」]

Indice dei nomi, pp. 195-204 [人名索引]

(3) 学術論文

Pasolini in Giappone, in «Studi pasoliniani», vol. 4, 2010, pp. 111-119. [「日本におけるパズリーニ」、『パズリーニ研究』第4巻、2010年、119-119頁]

「初期ウンガレッティと20世紀の短詩形」、『イタリア学会誌』第61号、2011年、195-216頁

Hanukichi Shimoi e l'avanguardia napoletana, in *Ricerca, scoperta, innovazione: l'Italia dei saperi*, a cura di Maria Katia Gesuato, Tokyo, Istituto Italiano di Cultura, 2014, pp. 43-51. [「下位春吉とナポリの前衛」、マリア・カティア・ジェズアート編『探求と発見と革新—イタリアの知見』、東京、イタリア文化会館、2014年、43-51頁]

「下位春吉とは何者か—一九三五年の現代日本詩撰—「ファシズム文学」とは」、『日伊文化研究』第53号、2015年、2-12頁

「ゲラルド・マローネとナポリの未来派」、『イタリア語イタリア文学』第8号、2016年、95-117頁

L'archivio Marone a Buenos Aires, in *La letteratura italiana nel mondo iberico e latinoamericano. Critica, traduzione, istituzioni*, a cura di Alejandro Patat, Pisa, Pacini, 2018, pp. 103-109. [「ブエノス・アイレスのマローネ文庫」、アレハンドロ・パタト編『スペイン語圏におけるイタリア文学—批評、翻訳、制度』、ピサ、パチーニ、2018年、103-109頁]

「イタリア・モダニズム再考」、『モダニズムを俯瞰する』、中央大学出版部、2018年、35-58頁

Il paradosso del mare nella poesia contemporanea italiana e giapponese, in *El mar en la lengua y la literatura italianas*, compilado por Elena Victoria Acevedo de Bomba, María del Carmen Pilan, Carlos E. Castilla, San Miguel de Tucumán, Universidad Nacional de Tucumán (F. de Filosofía y Letras), 2018, pp.26-41. [「日伊現代詩における海のパラドクス」、エレナ・ビクトリア・アセベド・デ・ボンバ、マリア・デル・カルメン・ピラン、カルロス・E・カスティリャ編『イタリア語イタリア文学における海』、サン・ミゲル・デ・トゥクマン、トゥクマン大学(文哲学部)、2018年、26-41頁]

Marinetti 1926: le Misurazioni come nuova critica teatrale e il primo viaggio in Sud America, in *El espectáculo en la lengua y la literatura italianas*, compilado por Norma Rosario Caballos Aybar, Córdoba, Brujas, 2019, pp. 122-132. [「1926年のマリネッティ—新たな劇批評と初の南米旅行」、ノルマ・ロサリオ・カバリョス・アイバル編『イタリア語イタリア文学におけるスペクタクル』、コルドバ、ブルハス、2019年、122-132頁]

Leopardi pessimista "ensei": un secolo di ricezione in Giappone, in «RILL Nueva Época», Revista del Instituto de Investigaciones Lingüísticas y Literarias Hispanoamericanas "Dra. Elena Malvina Rojas Mayer", Universidad Nacional de Tucumán, Facultad de Filosofía y Letras INSIL, vol. 24, Julio-Diciembre 2019, pp. 128-138. [「『厭世』詩人レオパルディー—1世紀に及ぶ日本での受容」、『新時代のRILL（スペイン系アメリカ言語文学研究センター「エレナ・マルビナ・ロハス・マイエル博士」）誌』、トウクマン大学、文哲学部INSIL、第24巻、2019年7-12月、128-138頁]

SEKIYU, PETROLIO. Criteri per la resa in giapponese, in PETROLIO venticinque anni dopo, a cura di Carla Benedetti, Manuele Gragnolati e Davide Luglio, Macerata, Quodlibet, 2020, pp. 237-247. [『石油』=『ペトロリオ』—日本語訳のための指針』、カルラ・ベネデッティ、マヌエーレ・グラニョラーティ、ダヴィデ・ルッリョ編『石油—25年を経て』、マチェラータ、クオッドリベット、2020年、237-247頁]

Mishima tra i letterati italiani: Moravia, D'Annunzio, Pasolini, in MISHIMA MONOGATARI. Un SAMURAI delle arti, a cura di Teresa Ciapparoni La Rocca, Torino, Lindau, 2020, pp. 183-193. [『ミシマとイタリアの文人たち—モラヴィア、ダンヌンツィオ、パゾリーニ』、テレザ・チッパローニ・ラ・ロッカ編『ミシマ・モノガタリ—芸のサムライ』、トリノ、リンダーウ、2020年、183-193頁]

「未来派の宣言文を読む」、『立命館言語文化研究』33巻2号、2021年11月、1-10頁

最新の業績→<https://researchmap.jp/read0146667>

(4) 小論・書評等

小論、*Mori Ōgai e Gabriele D'Annunzio: interscambi letterari nel primo Novecento giapponese* [『森鴎外とガブリエーレ・ダンヌンツィオ—20世紀初頭における文学的交流』、『往還と横断と—地域文化研究から総合国際学へ』、東京、東京外国語大学大学院、2010年、725-729頁]

小論、「藤枝静男、地理文学と普遍—学生に読んでもらいたい作家」、齊藤卓編『風紋のアンソロジー』第3号、浜松、浜松文芸館、2011年、191-201頁]

小論、「木下恵介の両義性」、齊藤卓編『KEISUKE』、浜松、木下恵介記念館、2011年、259-269頁]

小論、「サンドロ・ペンナの短詩形—須賀敦子が最後に訳した詩人」、『声をさがしつづけて—和田忠彦先生還暦記念論文集』、京都、英明出版、2012年、237-245頁]

書評、鯖江秀樹『イタリア・ファシズムの芸術政治』、『人環フォーラム』第30号、2012年3月、46頁]

小論、*Pasolini in Giappone: miti antichi per parabole contemporanee*, in «Hystrio», a. XXV, 1/2012, p.58. [『日本におけるパゾリーニ—古代の神話から現代の寓話へ』、『イストリオ』第25巻、2012年1、58頁]

小論、「イタリア語教育の拡充とイタリアの大学との学術交流協定に向けた研究報告」、『静岡文化芸術大学研究紀要』第13号、2013年、109-113頁]

書評、*Pasolini e il teatro*, a cura di Stefano Casi, Angela Felice e Gerardo Guccini, Venezia, Marsilio, 2012, in «Antropologia e teatro» (rivista accademica online), vol. 4, 2013. [ステファノ・カージ、アンジェラ・フェリーチェ、ジェラルド・グッチーニ編『パゾリーニと演劇』、オンライン学術誌『文化人類学と演劇』第4巻、2013年]

小論、「現代のイタリア詩人を読む—アレゴリー、短い詩とは」、『星美学園短期大学日伊総合研究所報』第10号、2014年、58-63頁]

小論、「『巴里の石松』松尾邦之助とイタリア語版『現代日本の詩篇』」、『DARADAMONDE』第3号、2014年、35-42頁共著、「ウンベルト・エーコ」、「ダーチャ・マライーニ」、『ノーベル文学賞にもっとも近い作家たち—いま読みたい38人の素顔と作品』、青月社、2014年、62-77頁]

書評、ナタリーア・ギンツブルグ『わたしたちのすべての昨日』、『図書新聞』第3199号、2015年3月21日]

項目執筆、和田忠彦編『イタリア文化—55のキーワード』、ミネルヴァ書房、2015年所収、「複数のイタリア」(2-3頁)、「イタリア人とイタリア語」(4-7頁)、「ローマ」(36-39頁)、「リソルジメント」(40-43頁)、「国旗と国歌」(44-47頁)、「共和国憲法と大統領」(52-55頁)、「ユダヤ系であること」(144-147頁)、「異端という天才」(174-175頁)、「フィレンツェと詩人」(200-203頁)、「アントニオーニ」(204-207頁)、「略年表」(29-39頁)]

書評、ロベルト・カラッソ『カドモスとハルモニアの結婚』、『図書新聞』第3248号、2016年3月26日]

書評、ウンベルト・エーコ『プラハの墓地』、『図書新聞』第3257号、2016年6月4日]

小論、「吉増剛造、サンパウロでアロルド・ジ・カンポスに会う」、『リア』第37号、2016年、84-86頁]

書評、カルミネ・アバーテ『偉大なる時のモザイク』、『図書新聞』第3265号、2016年7月30日]

書評、ウンベルト・エーコ『ヌメロ・ゼロ』、『京都新聞』、2016年10月30日]

書評、國司航佑『ベネデット・クローチェとイタリア頽廃主義—詩の哲学』、『イタリア学会誌』第66号、2016年、153-158頁]

小論、「吉増剛造英訳アンソロジー発刊を記念して」、『現代詩手帖』2016年11月号、94-95頁]

- 小論、*Due lezioni su Dante e Pasolini* [「ダンテとパゾリーニについての二講」、『声をさがしつづけて—和田忠彦先生退任記念論集』、京都、英明出版、2016年、11-19頁]
- 書評、ウンベルト・エーコ『ヌメロ・ゼロ』、『図書新聞』第3285号、2017年1月1日
- 書評、ダーチャ・マライーニ『ひつじのドリー』、『図書新聞』第3288号、2017年1月21日
- 書評、アントニオ・タブッキ『とるにたらないちいさいきちがい』、『図書新聞』第3316号、2017年8月19日
- 書評、石井元章『明治期のイタリア留学—文化受容と語学取得』、『イタリア学会誌』第67号、2017年、159-166頁
- 書評、マッシモ・ボンテンペッリ『鏡の前のチェス盤』、『図書新聞』第3334号、2018年1月13日
- 書評、和田忠彦『遠まわりして聴く』、『現代詩手帖』2018年3月号、129頁
- 小論、*Prigionieri italiani in Giappone durante la Grande Guerra*, «Liberi», Associazione Nazionale Reduci della Prigionia, giugno-luglio-agosto 2018, pp. 12-13. [「第一次大戦期の日本におけるイタリア人捕虜」、『開放—全国元捕虜協会会報』、2018年6-7-8月、12-13頁]
- 書評、『ウンガレッティ全詩集』(2018)、『クエジーモ全詩集』(2017)、『図書新聞』第3362号、2018年8月4日
- 書評、マリア・ロベルタ・ノヴィエッリ『アニメラマー—日本アニメーション映画史』、『日本研究』第58巻、2018年、253-257頁
- 書評、ポーリ、カルカーニョ『ブリーモ・レーヴィー—失われた声の残響』、『図書新聞』第3381号、2019年1月1日
- 書評、ナタリア・ギンズブルグ『小さな徳』、『図書新聞』第3388号、2019年2月23日
- 小論、「イタリア文学」、『文藝年鑑2019』、東京、新潮社、2019年、85-87頁
- 書評、ロベルト・テッロージ『イタリアン・セオリーの現在』、『図書新聞』第3407号、2019年7月13日
- 書評、ウンベルト・エーコ『ウンベルト・エーコの文体練習』〔完全版〕、『図書新聞』第3414号、2019年9月7日
- 書評、『ブリーモ・レーヴィ全詩集—予期せぬ時に』、『図書新聞』第3421号、2019年11月2日
- 書評、『どこか、安心できる場所で—新しいイタリアの文学』、『図書新聞』第3438号、2020年3月7日
- 書評、ジョン・ファンテ『犬と負け犬』、『図書新聞』第3448号、2020年5月23日
- 書評、吉田喜重『贖罪—ナチス副総統ルドルフ・ヘスの戦争』、『図書新聞』第3454号、2020年7月4日
- 書評、バリエ=イン克蘭『独裁者ティラノ・バンデラス』、『図書新聞』第3459号、2020年8月8日
- 小論、「イタリア文学」、『文藝年鑑2020』、東京、新潮社、2020年、77-79頁
- 書評、ウンベルト・エーコ『文学について』、『図書新聞』第3485号、2021年2月27日
- 書面インタビュー、*La letteratura italiana in Giappone: tradizioni, ricezione, scambi. Intervista a Hideyuki Doi*, a cura di Matteo Vercesi, in «Filigrane», I(2021), 2 [「日本におけるイタリア文学」(マッテオ・ヴェルチェジに対し土肥秀行談) 『フィリグラネ』2021年、第1巻2号]
- 書評、藤谷道夫『ダンテの『神曲』を読み解く』、『図書新聞』第3499号、2021年6月12日
- 小論、「イタリア文学」、『文藝年鑑2021』、東京、新潮社、2021年、77-79頁
- 小論、*Dante in Japan*, in «Asymptote», 2021/7/7
<https://www.asymptotejournal.com/blog/2021/07/07/no-sea-left-uncharted-dante-in-japan/>
- 書評、マイケ・アルバート『トリノの精神—現代イタリアの出版文化を築いた人々』、『図書新聞』第3508号、2021年8月14日
- 小論、「イタリアの夏石番矢」、『吟遊』第92号、2021年10月25日、pp.2-4
- 書評、バッペ・フェノーリオ『アルバの23日』、『図書新聞』第3519号、2021年11月13日
- 書評リリアナ・セグレ『アウシュヴィッツ生還者からあなたへ—14歳、私は生きる道を選んだ』、『図書新聞』第3535号、2022年3月19日
- (5) 研究発表・講演等
- 研究発表、*Mori Ōgai e Gabriele D'Annunzio: interscambi letterari nel primo Novecento giapponese* [「森鷗外とガブリエーレ・ダヌンツィオー—20世紀初頭における文学的交流」、東京外国語大学—ローマ大学サピエンツァ共同セミナー、2010年2月24日、ローマ大学サピエンツァ東洋学部]
- 招待講演、「地中海文化圏とカルタゴ—ローマの発掘現場より」(岩城克洋氏と共同)、「チュニジア世界遺産—古代カルタゴとローマ展」開催記念、2010年4月25日、浜松市立美術館
- 出版記念講演会、*L'esperienza friulana di Pasolini* [「パゾリーニのフリウリ体験」、2011年11月11日、ポローニャ市立シネマテーク]
- 研究発表、「下位春吉とゲラルド・マローネ—ナポリにおける文学的交歓」、シンポジウム「ファシズムと文学—下位春吉をめぐる」(企画・司会・発表)、2012年12月14日、静岡文化芸術大学
- 研究発表、「ゲラルド・マローネとナポリの前衛」、イタリア学会第61回大会、2013年10月19日、富山大学

公開講座、「現代のイタリア詩人を読む—アレゴリー、短い詩とは」、2013年11月9日、星美学園短期大学

招待講演、「イタリアにおける日本文化—短詩形の影響を中心に」、2013年12月14日、掛川市竹の丸

招待講演、*Harukichi Shimoi, l'amico giapponese di Gherardo Marone* [「ゲラルド・マローネの友人、下位春吉」、モンテ・サン・ジャコモ市主催講演会、2014年9月2日、ヴィッラ・マローネ市立図書館

研究発表、「1935年の日伊関係と文学交流」、関西イタリア学研究会、2014年11月30日、立命館大学

招待講演、*La fortuna di Dante in Giappone* [「日本でのダンテ受容」、国際シンポジウム「ダンテへのオマージュ」記念オープンニング講演、2015年9月2日、ブエノスアイレス・ダンテ協会

招待講演、「アルゼンチンのイタリア人—マローネとヴィタ＝フィンツィ」、イタリア研究会、2015年10月30日、東京文化会館

研究発表、「立命館大学文学部における多言語入試と大学教育とをつなげる新たな取り組み—中国語・朝鮮語・イタリア語を中心に」（庵道由香氏と共同）、日本外国語教育推進機構 JACTFL 主催シンポジウム「第4回外国語教育の未来を拓く—多様な外国語教育の価値を発見する」、2016年3月13日、上智大学

招待講演、「イタリア・ノヴェチェント再考」、中央大学人文科学研究所主催公開研究会、2016年7月30日、京都キャンパスプラザ

研究発表、「*L'Italia, un Giappone in Europa*”: *le immagini sovrapposte nel boom dell'Italia del tardo periodo Meiji* [「*以太利は欧州の日本也*—明治後期イタリアブームにおける二重写し」、国際シンポジウム「19世紀における日伊関係」、2016年10月14日、上智大学

招待講演、*Un rapporto a specchio: centocinquanta anni di parallelismo tra Italia e Giappone* [「鏡像的關係—日本とイタリアの歴史的並行関係150年」、2017年7月7日、フォッジャ大学人文学部

研究発表、*Il paradosso del mare nella poesia contemporanea italiana e giapponese* [「日伊現代詩における海のパラドクス」、アルゼンチン・イタリア文学語学会 ADILLI 第33回国際大会、2017年9月18日、トゥクマン大学文哲学部

研究発表、*SEKIYU, PETROLIO. Criteri per la resa in giapponese* [「『石油』 = 『ペトロリオ』—日本語訳のための指針」、国際シンポジウム「『石油』 発刊から25年を記念して」、2017年11月9日、高等師範学校（ピザ）

研究発表、「ローマと文学—作家の本棚」、関西イタリア学研究会、2017年12月10日、京都外国語大学

招待講演、*Leopardi pessimista “ensei” : un secolo di ricezione in Giappone* [「*「厭世」詩人レオパルディー1世紀に及ぶ日本での受容*」、レオパルディ研究会、2018年2月8日、ローマ大学サピエンツァ文哲学部

研究発表、*Gli avanguardisti non allineati al movimento di Marinetti: Lionello Fiumi, Auro d'Alba, Francesco Meriano* [「マリネッティの運動に与さない前衛作家たち—リオネッロ・フィウーミ、アウロ・アルバ、フランチェスコ・メリアーノ」、国際シンポジウム「*「われわれは20世紀文学のためにある」*資料館での研究」、2018年2月21日、ローマ大学サピエンツァ文哲学部

研究発表、*Prigionia italiana in Giappone durante la Grande Guerra* [「第一次大戦期の日本におけるイタリア人捕虜」、国際シンポジウム「日本が語るイタリア」、2018年2月23日、レッジョ・カラブリア外国語大学大講堂

研究発表、*Marinetti 1926: le Misurazioni come nuova critica teatrale e il primo viaggio in Sud America* [「1926年のマリネッティ—新たな劇批評と初の南米旅行」、アルゼンチン・イタリア文学語学会 ADILLI 第34回国際大会、2018年9月20日、コルドバ大学文哲学部大講堂

研究発表、「マリネッティの“規範回帰”—国際的展開と演劇批評」、イタリア言語・文化研究会第157回例会、2018年12月1日、早稲田大学

招待講演、「パヴリーニにおける文学と映画の円環」、2018年12月14日、イタリア文化会館（大阪）

招待講演、*A proposito del MIRAI, tutto ciò che non ci arriva ancora (o forse è già arrivato)* [「ミライについて、未だおとずれぬこと（あるいは既におとずれたこと）」、2019年2月19日、ローマ日本文化会館

招待講演、「第一次大戦期の日本におけるイタリア人捕虜」、イタリア近現代史研究会第337回例会、2019年4月20日、工学院大学新宿校舎

研究発表、「マルコのはてしない旅—イタリアにおける『クオーレ』とマルコの物語評」、日本比較文学会関西支部2019年度1月例会シンポジウム「アニメーションの東西交流—ハイジとマルコの物語」、2020年1月25日、国際日本文化研究センター

オンライン講演会、*Mishima Yukio e la letteratura italiana, sullo sfondo del suo teatro* [「三島由紀夫とイタリア文学、背景にある演劇」ポローニャ大学芸術学部主催、2020年6月16日]

オンライン研究発表、*Pasolini e Mishima: attualità di due figure “incompresi” dopo 45/50 anni dalle loro morti* [「パヴリーニとミスマ：没50/45年をむかえる“無理解の”存在のアクチュアリティ」ブエノスアイレス大学主催、*Congreso internacional. Passeurs—La cultura italiana fuori d'Italia (1945-1989): ricezione e immaginario*, 2021年8月26日]

オンライン研究発表、*Dante in Giappone fra traduzioni e rimaneggiamenti* [「日本におけるダンテ、翻訳と改作と」イタリア東方学研究所 ISEAS 主催、*Leggere Dante in Asia Orientale*, 2021 年 10 月 25 日]

オンライン研究発表、*Interrogare Dante oggi in Giappone* [「今日、日本においてダンテを問う」トクマン大学文学部主催、*Homenaje a Dante Alighieri*, 2021 年 10 月 28 日]

(6) 翻訳

共訳、ウンベルト・エーコ『カントとカモノハシ』(下)、東京、岩波書店、2003 年、179-269 頁 [和田忠彦監訳、共訳者柱本元彦]

単訳、Kiju Yoshida, *L'anti-cinema di Ozu*, Firenze, Cesati, 2008, 233 pp. [原著、吉田喜重『小津安二郎の反映画』、東京、岩波書店、1998 年]

共訳、ヴァッティモ、ロヴァッティ編著『弱い思考』、東京、法政大学出版局、2012 年、261-365 頁 [編著上村忠男、共訳者山田忠彰、金山準]

共訳、ウンベルト・エーコ『エーコのテレビ論集成』、東京、河出書房新社、2021 年、317-331 頁 [和田忠彦監訳、共訳者石田聖子、小久保真理江、柴田瑞枝、山崎彩、横田さやか]

3. 主な社会活動

(1) 非常勤講師

東京大学教養学部非常勤講師 (2006 年 4 月 1 日～2009 年 3 月 31 日)

東京外国語大学外国語学部非常勤講師 (2007 年 4 月 1 日～2014 年 3 月 31 日)

東京大学大学院人文社会系研究科 (南欧語南欧文学専門分野) 非常勤講師 (2020 年度集中講義)

京都産業大学外国語学部 (2020 年 4 月 1 日～)

立命館大学文学部授業担当講師 (2022 年 4 月 1 日～)

(2) 学会

イタリア近現代史研究会

イタリア学会

イタリア学会事務局長 (2008 年 4 月 1 日～2010 年 3 月 31 日)

イタリア学会評議員 (2007 年 4 月 1 日～)

イタリア学会誌編集委員 (2016 年 1 月 1 日～2019 年 12 月 31 日)

イタリア学会幹事 (2016 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日)